

寛政の三名筆

の ぐち せつ こう

野口雪江展

私たちの郷土・熊谷は、古くから政治・文化の中心都市の一つとして発展してきました。特に江戸時代は中山道の宿場町として栄え、中山道の数ある宿場町の中でも有数の規模を誇りました。そのため多くの文人・墨客が訪れ、またたくさんの政治・思想家、芸術家などを輩出いたしました。その中の一人に野口雪江があげられます。

雪江は享保一七年（一七三二）に熊谷で生まれました。父は大善院七世秀融です。雪江は若くして金峯山寺において修験道の修行をし、鎌倉町にあった熊谷総鎮守愛宕神社の祠官をつとめ、大善院八世を名乗りました。

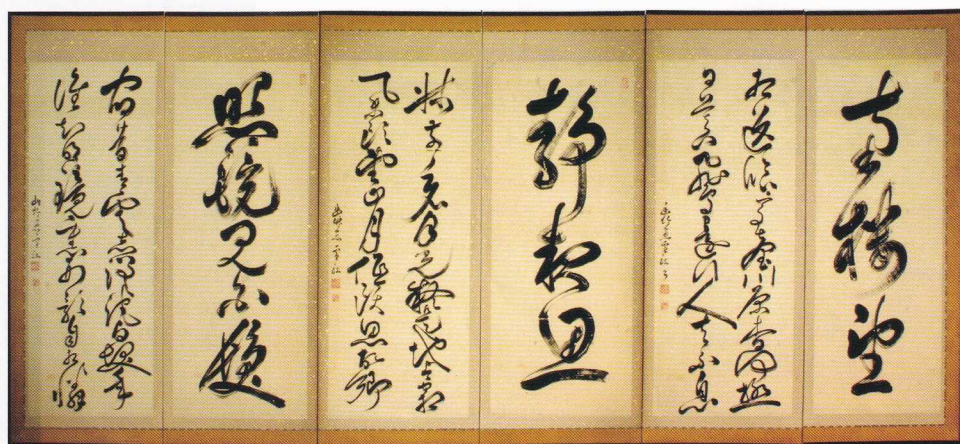
若い頃から学問に励み、一八歳ごろ江戸へ出て、当時名声のあつた書家の関思恭に入門し、書道を研鑽しました。特に草書にその才能を発揮し、寛政九年（一七九七）、弟子達の勧めにより江戸・浅草寺に「佛身圓滿無背相」「十方來人皆對面」と書いた両聯を奉納、世の書家たちから「寛政の三名筆」と呼ばれるほどの人物でした。この両聯は現在も浅草寺の外陣に掲げられています。

性格は謙譲、博識でよく人を導き、俳諧や書道などにおいて後進の育成にあたり、江戸後期における熊谷宿の有識者の一人として多くの文人・墨客と交わり、幅広い文化活動を推進した人でもありました。

書に、俳諧に活躍した雪江でしたが、寛政十一年（一七九九）に六八歳で亡くなりました。

今回展では所蔵品を中心に、野口雪江の書の作品を展観いたします。「飲中八仙歌」は、唐代の詩人・杜甫の詩で、杜甫が唐代における名立たる酒客八人を選び詠った詩です。また「六漢詩」は唐代の詩人の五言絶句六篇からなる六曲一雙の屏風です。この「六漢詩」は熊谷市の指定文化財にもなっています。

これらの作品から、熊谷の有識者の先駆けとして活躍した雪江の人柄を偲ぶとともに、きびしい修行を通して培った精神力で、一気に、大胆に制作した迫力あるこれらの作品を堪能していただければ幸いです。



六漢詩（六曲一雙）熊谷市指定文化財

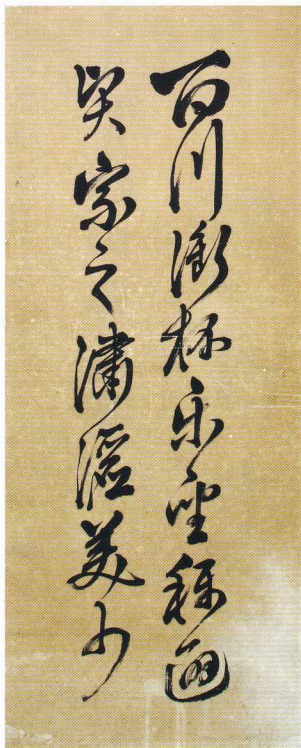
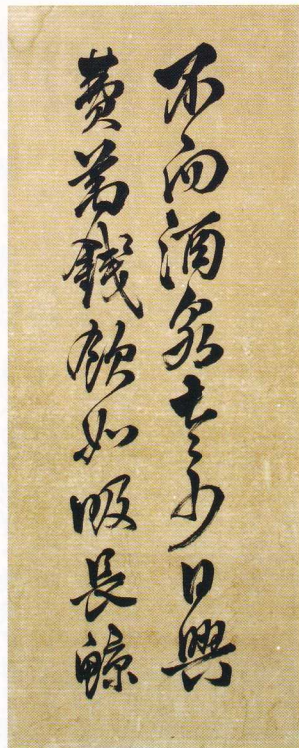
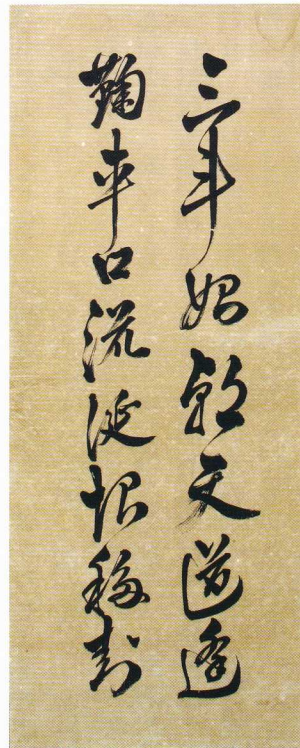
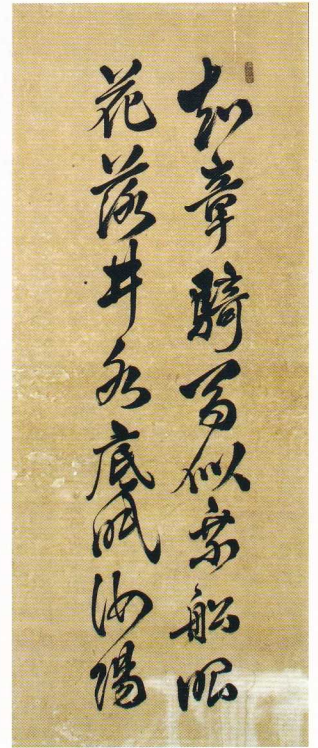
会期：令和二年三月三日（火）～六月七日（日）

休館日：毎週月曜日（祝日を除く）、3/6、4/3、4/30、5/1、5/7、6/5

会場：熊谷市立熊谷図書館 郷土資料展示室

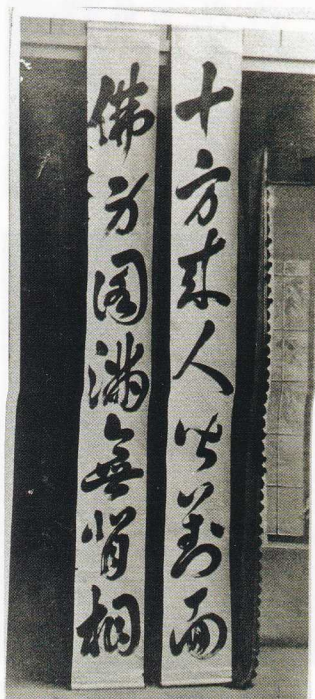
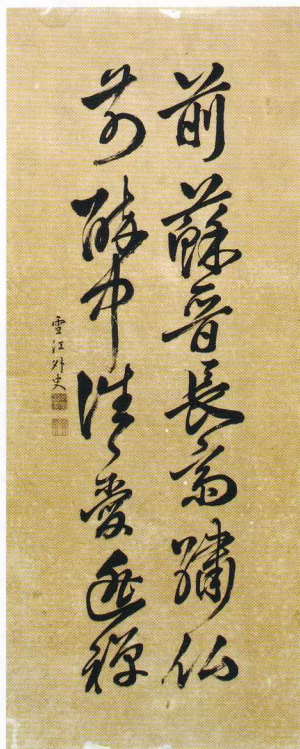
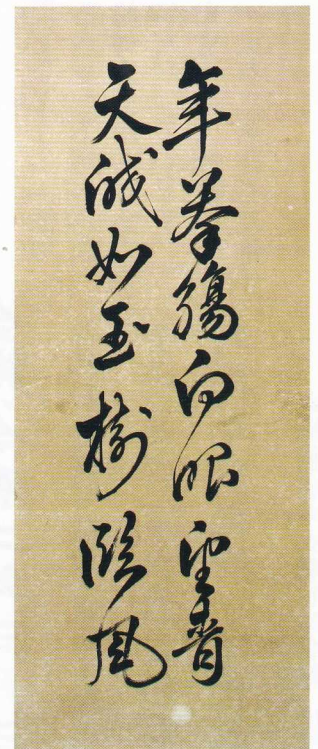
時間：午前九時～午後五時 入場無料

主催：熊谷市立熊谷図書館 住所：熊谷市桜木町2-33-2 048-525-9463



「六漢詩（六曲一双）」…唐代詩人の五言絶句六篇からなる。六篇とは以下のとおり。「南望楼」の内容は王維の「臨高台」、李白の「静夜思」、張九齡の「照鏡見白髮」、李白の「敬亭山」「秋浦歌」、張説の「蜀道後期」。

「飲中八仙歌」…唐代詩人の杜甫の詩。ここに詠われる八仙とは、賀知章、李適之、汝陽王、崔宗之、蘇晋、李白、張旭、焦遂の八人で、それぞれの酩酊ぶりが詠まれている。雪江のこの作品は、賀知章から蘇晋までを詠った部分のみで、李白以降を詠った部分が書かれていない。



浅草寺の兩聯の下書奉納された兩聯は、現在も浅草寺の外陣に掲げられている。またこれと同形の小型のものが熊谷寺山門にも掲げられていた。



野口雪江自画像（写真）
自画像の実物は、昭和20年の熊谷空襲によって焼失した。